



文学の力とは何か
 人生の狭間で③

「立て板に水」ということわざがある。この言葉から連想するのは梅光学院大学の佐藤泰正文学博士である。知り合った時は梅光女学院大学の学長。当時、遠藤周作の「沈黙」が話題になっていた。



20年前の佐藤先生

「忙しい」と、一時の間番組の中でコーナーでは消化不良と言われた。大学の授業は九十分。そこで続行してもらうため一カ月に一度、ラジオ出演のあと、同じ施設内で講演してもらった。ここで説得し、実現したのが「KRYかたつむり大学」である。

徳山の図書館で「遠藤周作の世界」という講演会があると聞いて出た。そのころ、下松市のザ・モール周南のサテライト・スタジオからのラジオ番組の開始を控えており、先生に週一度のレギュラー出演を強引に頼んだ。学長と八歳。今も週一度、大学院で授業をしておられ

りながら「熱意に負けた」と言われ、下関から毎週一度、下松のサテスタに来て下さり、夏目漱石、宮沢賢治などの近代日本文学について話してもらおう。しかし、一ヶ月(三カ月)が過ぎた時、「止めた」と言われ、十六歳でドストエフスキーに会い、以



文学の力とは何か
 今も奥様を「京さん」と呼ばれ、老いても初々しく互いに尊敬し合う、あこがれのご夫婦である。

佐藤泰正
 Sato Yasunori

激石・透谷・賢治ほかにふれつつ

今回出版された本の表紙

平成六年二月から八年二月の間、百回の文学講座は話題にもなり、継続は力だと実感する。現役時代の忘れられない出来事だ。終了後も個人的に交流は続き、新しい本を出版されると必ず送って下さる。先生の奥様は画家で、今年九十五歳。以前、旧約聖書と新約聖書をテーマにした画集「花のある風景」をいただいた。お子様には恵まれなかつたため、孤児院事業に

「文学の力」とは何だろうか。佐藤先生は二十世紀のドストエフスキと呼ばれたカフカの

「文学の力」とは何だろうか。佐藤先生は二十世紀のドストエフスキと呼ばれたカフカの

「文学の力」とは何だろうか。佐藤先生は二十世紀のドストエフスキと呼ばれたカフカの

「文学の力」とは何だろうか。佐藤先生は二十世紀のドストエフスキと呼ばれたカフカの

「文学の力」とは何だろうか。佐藤先生は二十世紀のドストエフスキと呼ばれたカフカの

「文学の力」とは何だろうか。佐藤先生は二十世紀のドストエフスキと呼ばれたカフカの